

2021
秀作

第54回「おかねの作文」コンクール

人と人との心をつなぐお金

神奈川県・横浜市立大道中学校 1年 荒井 若葉

私は「犬を飼いたい。」と思っています。目が丸く、くせっ毛で、足の短い、ぬいぐるみのようなトイプードルです。そう思ったきっかけは、ドライブをしているとき、丸くて小さい、ぬいぐるみのようなトイプードルが散歩していたところを見て、一目ぼれしてしまったからです。その日から、トイプードルが頭から離れなくなりました。そこで、夏休みに

「犬を飼いたい。」

と、母に相談したところ、母から、

「とても値段が高いし、世話をするのも大変だよ。」

と言われました。自分が散歩やえさやりなどの世話もするし、お年玉をためていたお金もあるので、仔犬が買いたいと思い、インターネットで、仔犬の値段を調べてみました。私が思っていた仔犬の値段より、とても高く、自分のお金だけでは買うことができなかったのです。

そこで、どうしたらお金を稼ぐことができるのか考えていたとき、

「フリーマーケットのアプリでお金を稼げばいいんじゃない？」

と母にアドバイスをしてもらいました。さっそく、フリーマーケットのアプリで着られなくなった服、おもちゃなどを売ることにしました。すると、出品して間もないうちにたちまち売れていったのです。しかし売り上げが伸びると同時に、梱包に追われるようになっていきました。始めのうちは、梱包するときに売る服を見ながら、その服を着て出かけた思い出を思い返したり、楽しく遊んだ思い出を振り返りながら、おもちゃを梱包したりしていましたが、どんどん売れていくほど心に余裕がなくなり、機械的に梱包するようになっていったのです。

そんな中、ある日、買ってくれた人からメッセージが届きました。読んでみると、

「届いた品物を見て、娘がとても喜んでいました。大切に使います。ていねいな梱包や、きれいな品をありがとうございました。」

と、書いてありました。自分の大切にしていた思い出の品物が、また新たに大切に使ってもらえると思うと、心が温かくなりました。このメッセージは、うれしかったと同時に、ハッとした気持ちにもなりました。それまでの私は、たくさん売れることだけを考えて出品していました。ところが、このメッセージを読み、出品した商品が、受け取った人の生活の一部となり、それを使うことで私が感じたような楽しい思い出をつくるきっかけになるのではないかと気付かされたのです。それから私は、ただ売ればよいという気持ちだけでなく、次に使ってくれる人に気持ち良く使ってもらえるようにしたいと思うようになりました。

そこで、三つのことを心がけるようにしました。一つ目は、商品のチェックと消毒です。品物を届いてすぐ使えるよう、また、コロナ禍でも安心して使えるようにするためです。おもちゃの細かいパーツ一つ一つを念入りに確認し、少しの汚れもていねいに落としました。また、消毒できる物には全て消毒をしました。二つ目は、商品の情報を正確に詳しく載せることです。商品を本当に欲しい人に届けられるようにするためです。さまざまな角度から写真を撮るようにし、物によってはアップとルーズを使い分けるようにしました。また、分かりにくい点や注意する点などは、文章で詳しく載せました。三つ目は、ていねいに梱包することです。商品をきれいな状態で届け、開けた瞬間の出会いを大切にしたいからです。入れる袋や箱は商品に合った最適な物を選ぶようにしました。そして、商品が配送中に壊れることがないように、梱包材で包んだり、箱にすき間ができないよう、新聞紙を詰めたりしました。さらに、小さい物一つ一つを梱包材で包むことにもこだわりました。大変な作業ですが、この手間が受け取る人のためと思うと、自然とワクワクした気持ちになりました。これらのことを心がけるうちに、うれしいメッセージをもらうことが増え、出品することがより楽しく充実したものになっていったのです。

このことから、私はとても大切なことを教えてもらったような気がします。フリーマーケットは、単なるお金を稼ぐというだけでなく、お金と品物のやりとりを通して人の心と心をつなぎ、思いをつないでいくということです。思い

出の品がまた新たな人や場所で思い出をつくり、売れたお金で仔犬を買って、新しい思い出をつくることのできるのです。

お金は人と人との心をつないでいきます。人と人との心がつながったお金で仔犬を買う夢を実現できるとすると、今からワクワクします。

